

授業に役立つ資料館

歴史民俗資料館ご利用のしおり

— 常陸大宮に生きた人々のあゆみ —

豊饒の台地

常陸大宮市には現在わかっているだけでおよそ360の遺跡があります。その中から縄文時代の坪井上遺跡出土の硬玉（ヒスイ）製大珠、小野天神前遺跡や泉坂下遺跡、一騎山古墳から出土した土器類、埴輪などをはじめとする豊富な考古遺物を展示しています。

戦乱の世

中世には市内各地に佐竹の家臣や陪臣の城が築されました。同時代の画僧雪村周継は部垂村田郷（市内下村田）で誕生し、数々の水墨画の傑作を残したことで知られています。また、市内下町に伝わる獅子頭は一人立三匹獅子舞の頭としては最古の銘を持つものとして注目されます。



令和8年度版

常陸大宮市歴史民俗資料館

授業に役立つ資料館

目次

主 旨	1
施設の概要	
「学習利用例」の見方	2
学習利用例	
学習利用例一覧	3
「地域の遺跡を調べよう」	4
「永田茂衛門父子と水戸藩三大江堰について調べよう」	5
「粉コンニャクを発明した中島藤衛門について調べよう」	6
「農村歌舞伎や地域にのこっている舞台を調べよう」	7
「ふるさとの特産品「西ノ内和紙」について調べよう」	8
「村や町のうつりかわりを調べよう」	9
「身のまわりの石仏や石塔を調べよう」	10
「地域のおまつりや行事について調べよう」	11
「昔の道具から 暮らしのうつりかわりを調べよう」	12
お申し込みと実施までの手順	13
資料館利用計画書の様式（参考）	14

主 旨

常陸大宮市の歴史民俗資料館は、考古資料と歴史資料を展示しています。

資料館には、県下でも指折りの考古資料や、2000点余りの民俗資料など、小・中学校の歴史や郷土に関する学習に役立つ資料が、数多く展示・収蔵されています。常陸大宮市が掲げる「郷育立市」の理念のもと、これらの資料を有効に活用し、児童・生徒の郷土理解や学習意欲を高めることに役立てていただけるよう、利用の例をあげて作成しました。

「学習利用例」は基本的に、館内見学と説明で約30分程度、更に旧山方館では、体験学習を組み合わせることも可能で、その場合、正味1時間程度を想定しています。辰ノ口堰見学などの館外見学が加われば、その分時間は長く必要となります。また、資料館見学から発展した現地見学や、調査を実施するような場合に、担当者を派遣することもできます。取り上げた利用例以外に、別のテーマでもご相談いただき、館外講師の紹介等も含めて、柔軟に対応を図ります。

〈施設の概要〉

	歴史民俗資料館	旧山方館
住 所 連 絡 先	〒319-2265 常陸大宮市中富町1087番地の14 TEL/0295-52-1450 FAX/0295-52-5233	〒319-3111 常陸大宮市山方969番地の2 ※問合せ・申込みは歴史民俗資料館にご連絡下さい
アクセス	JR水郡線 常陸大宮駅より徒歩5分	JR水郡線 山方宿駅より徒歩5分
受入人数	最大約30名 (多い場合はクラス単位で入替えて対応)	※要予約 5名から20名程度 (体験学習は20名程度で入替え)
休 館 日	月曜・祝日・月末・年末年始	
展示テーマ ・ 主な展示品	「常陸大宮地域に生きた人々のあゆみ」 石器や国内最大の人面付土器、埴輪などの考古遺物や、中世の城や、および水戸藩三大江堰や西塩子の回り舞台関連資料、青い目の人形等を展示	「人々のくらしと民俗」 地域で産出するメノウなどの鉱物資源、西ノ内紙・コンニャク・葉たばこなどの生産道具や、祭礼、生活や生業に関わる民俗資料、粉コンニャクを発明した中島藤衛門に関する資料を展示
館内施設	展示室2、身障者用トイレ	トイレ

「学習利用例」の見方

学習のテーマと目標です

授業内容や児童・生徒の興味により、目標は自由に設定できます

例2

永田茂衛門父子と水戸藩三大江堰について調べよう

めあて

- ◆当時、“米”が果たした役割を学習し、昔の人々の米に対する気持ちと、私たちが持つ食料のひとつとしての米への感情の違いを理解する。
- ◆当時の土木資材や道具、施工の工夫を調べて、それらが優れていることを理解し、現在も多くの人々の生活の役に立っている事実を知る。

※資料館には永田茂衛門父子と三大江堰に関する常設展示があります（企画展開催時除く）

◆資料館で見ることができるもの

資料名	貸出
三大江堰と用水路や施設の模型	
土木作業時の道具（鍬、ジョレン、カケヤ、モッコ、タコ、水準器 他）	要相談
土木作業時の資材（蛇籠、俵、そだ 他）	

これらの資料を使って約30分の説明付き資料館見学を行います

◆常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・『水戸藩利水史料集—永田茂衛門父子の業績と三大江堰—』
- ・『図説 永田茂衛門親子と三大江堰』 『山方町誌 上・下巻』 『大宮町史』
- ・ビデオ「蛇籠づくり」

内容によって、時代、詳細テーマ、資料名、貸出、館内での体験、備考など、項目立てに違いがあります

ここに記された本やビデオは歴史民俗資料館で見ることができます

学習利用例

これまで資料館では、現地見学や体験学習をともなう、学校の授業に合わせた資料館見学や出前授業を実施してきました。それらの経験にもとづいて作ったのが、下記の9つの学習利用例です。資料館の性格上、教科は社会科にかたよっていますが、他のテーマでもご要望があればできるだけ対応いたします。出前授業も可能ですので、ぜひご相談ください。

〈学習利用例一覧〉

教科・領域	時代	テーマ	内容	頁
社会科、 総合学習	旧石器時代 ～室町時代	地域の遺跡を調べよう	資料館の展示物や、地元の城跡などを見学することで、身近に遺跡のあることを知ろう	4
社会科、 総合学習	江戸時代 ～現代	永田茂衛門父子と水戸藩三大 江堰について調べよう	現在も私達に恩恵をもたらしている堰や用水の構造、永田茂衛門らの苦勞や工夫を学ぼう	5
社会科、 総合学習	江戸時代 ～現代	粉コンニャクを発明した中島 藤衛門について調べよう	ひとりの人間のひらめきと努力が、郷土をひらく力になったことを知ろう	6
社会科、 総合学習	江戸時代 ～現代	農村歌舞伎や地域にのこって いる舞台を調べよう	市内に残る組立式農村歌舞伎舞台や人形芝居の道具から地方文化を考えよう	7
社会科、 総合学習	江戸時代 ～現代	ふるさとの特産品「西ノ内和 紙」について調べよう	ほぼ市内全域で行われ、地域経済を支えてきた和紙生産の歴史と、生産の工程を知ろう	8
社会科、 総合学習	明治～現代	村や町のうつりかわりを調べ よう	地域の統合や新しい道路の敷設によって、地域がどのように変わってきたかを調べよう	9
社会科、 総合学習	江戸時代 ～現代	身のまわりの石仏や石塔を調 べよう	毎日目にする石造物が、昔を教えてくれる貴重な史料であることを理解しよう	10
社会科、 総合学習	近・現代	地域のおまつりや行事につい て調べよう	失われつつある伝統を調べ、祖先が祭りや行事に込めた祈りと、その楽しさを知ろう	11
社会科、 総合学習	縄文時代 近・現代	昔の道具から 暮らしのうつ りかわりを調べよう	石器や民具を実際に使い、当時のくらしや現在の利便性等について考える	12

例1

地域の遺跡を調べよう

めあて

- ◆ 教科書に書かれている遠い昔の人々の生活の跡が、自分たちの身近に存在することを知る。
- ◆ 「昔は今より劣っていた」ことはなく、当時の環境の中で、高度な知識と文化を持っていたことを理解し、祖先の考えや生活から学ぶ姿勢を養う。

◆ 資料館で見ることができるもの

時代・詳細テーマ	資料名	貸出
旧石器時代 縄文時代 弥生時代	石器（石斧・やじり・ナイフ・石棒・おもり）、縄文土器（甕・鉢）、弥生土器（人面付土器・壺・甕・高坏）、土偶、アクセサリー（ヒスイの珠・コハクの珠・土製のイヤリング）、紡錘車（※糸紡ぎの道具）	不可
古墳時代	埴輪、鉄剣、鉄のやじり、アクセサリー（水晶の玉・ガラスの玉・コハクの玉）、土師器（坏）、須恵器（提瓶）、紡錘車	不可
奈良・平安時代	墨書土器、土師器（甕・壺・坏・高坏）、須恵器（坏・皿）、硯の破片、巡方（※役人の革帯の飾り）、瓦、魚網につける土製のおもり	不可
中世	城跡の写真	可

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『山方町誌 上巻』 『美和村史』 『緒川村史』 『御前山村郷土誌』 『大宮町史』
『大宮町史 史料集』 各旧町村埋蔵文化財分布地図 各遺跡発掘調査報告書（P15～参照）

例2

永田茂衛門父子と水戸藩三大江堰について調べよう

めあて

- ◆ 当時、“米”が果たした役割を学習し、昔の人々の米に対する気持ちと、私たちが持つ食料のひとつとしての米への感情の違いを理解する。
- ◆ 当時の土木資材や道具、施工の工夫を調べて、それらが優れていることを理解し、現在も多くの人々の生活の役に立っている事実を知る。

※資料館には永田茂衛門父子と三大江堰に関する常設展示があります(企画展開催時を除く)
※江堰の見学については、岩崎江堰、辰ノ口堰になります。

◆ 資料館で見ることができるもの

資料名	貸出
三大江堰と用水路や施設の模型 土木作業時の道具（鍬、ジョレン、カケヤ、モッコ、タコ、水準器 他） 土木作業時の資材（蛇籠、俵、そだ 他）	要相談

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『水戸藩利水史料集—永田茂衛門父子の業績と三大江堰—』
- ・ 『図説 永田茂衛門親子と三大江堰』
- ・ 『絵本 永田茂衛門親子と三大江堰』
- ・ 『山方町誌 上・下巻』 『大宮町史』
- ・ ビデオ「蛇籠づくり」

例3

粉コンニャクを発明した中島藤衛門について調べよう

めあて

- ◆ 当時の物の流通や運搬方法が、現在とどのように違っていたかを考える。
- ◆ 様々な自然環境や立地によって、地域ごとの特産物があることを理解する。
- ◆ ひとりの人間のアイデアと工夫が、大きな産業を生み出す力になることを理解する。

※旧山方館には粉コンニャク生産用具と中島藤衛門に関する常設展示があります

◆ 資料館で見ることができるもの

資料名	貸出
コンニャクカナナ、串、荒粉落とし、カナカギ、荒粉 中島藤衛門の麻裯、中島藤衛門を讃える碑の拓本	不可

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『山方町誌 上・下巻』

例4

農村歌舞伎や地域にのこっている舞台を調べよう

め
あ
て

- ◆ 地域に残る文化財を通して、地方の庶民文化の高さを理解しつつ、江戸時代における文化の浸透ぶりを知る。
- ◆ 現在は都市でしか鑑賞できない伝統芸能が、身近な存在であることを知る。

◆ 資料館で見ることができるもの

時代・詳細テーマ	資料名	貸出	見学館
江戸時代 歌舞伎	西塩子の回り舞台模型、舞台組立てや公演時の写真パネル、西塩子の回り舞台復元時の記録ビデオ	要相談	歴史民俗資料館
江戸時代 人形浄瑠璃	人形の頭	不可	旧山方館

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ ビデオ「回り舞台復元」
- ・ 『報告書 西塩子の回り舞台』 『図録 西塩子の回り舞台—その道具と芝居の周辺—』
- ・ 『案内書 西塩子の回り舞台』

例5

ふるさとの特産品「西ノ内和紙」について調べよう

めあて

- ◆ 自分たちが生活するふるさとは、江戸時代には、高級和紙を生産する一大拠点であったことと、当地の楮がわが国の紙漉き文化を支えていることを知る。
- ◆ 和紙について学ぶことで、日本の伝統的な技術や工芸品について学ぶきっかけとし、もの作りの苦勞と楽しさを学ぶ。

※地域を代表する伝統産業として、平成 24 年度「常陸大宮及び周辺地域の和紙生産用具と製品」が国登録民俗文化財になりました。現在、市内の小・中学校の卒業証書に西ノ内紙が用いられます。

◆ 資料館で見ることができるもの

資料名	貸出
楮の黒皮と白皮、ヒョヒトリダイ、小包丁、紙漉き道具、西ノ内紙	不可

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『西ノ内紙』
- ・ ビデオ「那須楮と西ノ内紙」

例6

村や町のうづりかわいを調べよう

め
あ
て

- ◆ 地域に残る地名を調べて、時代によって村がどのように統合されていったかを学び、人口の変化や学校の統合など、時代ごとの地域の状況を考える。
- ◆ 市町村の合併と、国の施策の関連を理解し、国と地方の関係を歴史的に考える。

◆ 資料館で見ることができるもの

資料の種類	資料名	貸出
古文書	検地絵図（八田村、鷹巣村、下村田村、小場村、小貴村）、 その他	不可
刊行された書籍等	『新編常陸国誌』『那珂郡郷土史』『茨城県の地名』『日本地名大辞典 茨城県』『茨城県大百科事典』『茨城県教育史上・下』国土地理院発行地図	不可

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『山方町誌 上巻』 『美和村史』 『美和村史料 近世村絵図』 『緒川村史』
『御前山村郷土誌』 『御前山村郷土誌資料集第三集 ふるさとの地名と古文書』
『大宮町史』 『大宮町史』（昭和33年版） 『大宮町の地名』 『山方の地名』
- ・ 各閉町・村記念誌、合併記念誌

例7

身のまわりの石仏や石塔を調べよう

めあて

- ◆ 家の回りやいつも通っている道の隅にある石仏や石塔に目を向け、地域の歴史や文化を知る貴重な史料であることを理解する。
- ◆ 当時の人々の石仏・石塔に託した願いや祈りを理解し、当時の生活環境を現在と比較して考える。

◆ 資料館で見ることができるもの

時代	資料名	貸出
近世～近代	石仏石塔の写真パネル、拓本、ビデオ「大宮町の講」 ※常設展示なし 事前にご連絡ください	要相談

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『ふるさとの民俗』（御前山） 『山方の石仏石塔』 『美和村史』
『おおみやの野仏とその祈り』 『大宮町の年中行事』

例8

地域のおまつりや行事について調べよう

めあて

- ◆ 地域で行われてきた祭礼や行事を調べ、人々が何を敬い、何を願ったかを知り、自分たちの現在の環境や生活と比較して考える。
- ◆ 祭礼や行事が行われた日時と、当時の仕事やくらしのサイクルを理解するとともに、祭りにおける子どもたちの役割とその楽しさを知る。

◆ 資料館で見ることができるもの

資料の種類	資料名	貸出
民具	マユダマ、掛軸、鯉幟、幟、雛人形、オオスケ人形、ワラデッポウ	不可
ビデオ	「大宮町の年中行事」 「大宮町の祇園」 「大宮町の講」	不可

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『山方町誌 下巻』 『美和村史』 『緒川村史』 『御前山郷土誌』 『大宮町史』
- ・ 『大宮町の年中行事』
- ・ 写真集『むら・ひと・くらし 一写真が語る茨城の民俗一』

例9

昔の道具からくらしのうつりかわりを調べよう

め
あ
て

- ◆ かつて各家庭にあった、くらしや生業に使われた数々の道具を見学し、使用法を知ることによって、衣食住にわたって昔は自給自足に近いくらしをしていたことを理解する。
- ◆ 時代ごとの人々の工夫や努力を学び、現在当たり前のこととして享受している利便性について、良い点と悪い点を考えるきっかけとする。

◆ 資料館で見ることができるもの

時代・詳細テーマ	資料名	館内での体験
縄文時代・弥生時代 (金属のない時代)	石のナイフ、甕形土器	石のナイフで紙を切る 本物の土器に触る
近世～近代	各種農具、家庭用品（火打石・台所用品・洗濯の道具・照明器具・暖房器具・ハタオリの道具 その他）	綿の種取りから糸車で の糸紡ぎまでの工程 火打石での着火

◆ 常陸大宮市や資料館で刊行・作成した関連資料

- ・ 『山方町誌 下巻』 『美和村史』 『緒川村史』 『御前山郷土誌』 『大宮町史』
- ・ 『山方町立歴史民俗資料館図録』 『大宮町の年中行事』
- ・ 写真集『むら・ひと・くらしー写真が語る茨城の民俗ー』
- ・ ビデオ『大宮町の年中行事』

お申し込みと実施までの手順

お問い合わせ

この資料をご覧になり、ご利用の希望やご質問等があれば、必ず歴史民俗資料館（☎52-1450）に、ご利用する1ヶ月前までにご連絡ください。

ご利用の申し込み

日程が決まったら、ファックスで「資料館利用計画書」をお送りいただき、ご利用申込みをしてください（資料館FAX52-5233）。ご利用は無料です。見学するものの確認や、内容についての打合せのための日程を調整します。

打合せ

実施内容の打合せを行います。

資料館見学等実施

打合せの内容に従って、資料館の見学や学習を行います。上履きを持参してください。（写真撮影は自由です）

終了後の対応

調べ学習のため来館する子どもたちや、電話での問合せに対応します。また、現地調査や、体験学習への対応等のご希望があればご相談ください。ゲストティーチャーとして伺うこともできます。（これらは、資料館見学に先立って実施することも可能です）

資料館利用計画書

令和 年 月 日

学校名		学年	年	人数	名
担当者	(組担任)	その他 引率者			
連絡先 住所	〒 (Tel/ Fax/)				
来館日時	月 日(曜日) 資料館着予定時間 時 分 資料館発予定時間 時 分	見学館 (○をつける)	1 資料館 2 旧山方館		
テーマ	学習单元名()				
利用形態	1 資料館見学 2 ゲストティーチャー 3 その他()				
資料館を利用しての学習のねらい					
資料館への要望					
備考					
資料館 担当者名	(対応職員数 名)			受付日 令和 年 月 日	

常陸大宮市歴史民俗資料館

〒319-2265 茨城県常陸大宮市中富町1087番地の14

TEL 0295 (52) 1450

FAX 0295 (52) 5233

*月曜・祝日・月末・年末年始 休館